

7/13MTG 議事録

1. ここ2、3日の目的。
住環境を整えること。被災地を知ること。
2. 今日の流れ
6:00 遠野に到着。
6:00～7:00 朝食。
7:00～9:00 休憩。
9:00～12:00 物資調達、部屋の整備、ご飯作り。
13:00～19:00 物資調達、部屋の整備、ご飯作り、車に Child Fund Japan のステッカー貼り。
20:00～22:00 ミーティング。
22:00～各自お風呂など、就寝。
3. 今日の成果報告
 - 台所班→調理器具、食器を調達し、食事するところを統一した。
 - 台所に今のところ足りないものなし。
 - どれをどれにつかうのか共有する必要性。布巾など。
 - 引き継ぎの時に共有しやすくすると楽。
→目印をつけよう。
 - 女子部屋班
 - カーテンをつけてまぶしくなくなった。
 - トイレのカギが壊れ気味なので標識をつくった。入っているか入ってないか。
 - 風呂のプライバシー確保。それによって通路が通れるようになった。
 - 問題点→手を洗う場所にタオル掛けがついていない。
→壁時計がない。
 - 風呂場の髪の毛を捨てる場所確保したほうがいい。
 - ご飯組
 - 昼→そうめん、夜→カレー。
 - 役割→調達、指示当て。
 - 1週間の担当を決める。
 - 活動がグループで別れた場合に、クーラーボックス足りない。
 - おにぎりはラップでつつんで作るよう徹底。衛生面が心配だから。
 - Child Fund Japan の車3台にステッカーを貼った。
 - 参加した理由をそれぞれが語る。
 - 明日の予定→6時からおにぎり作成。8時出発。大船渡、陸前高田視察。
→お昼から、必要なこと整える、大船渡仮設住宅地図作成。
→のりぴーと材料調達。(プリンター作りなどの)

4. 役割

- グループリーダー：おっキー
- 会計：こじこじ

5. ミーティングの役割。

- 各自がこのボランティアに参加する目的、理由や各プログラムの目的などを述べて、考えることで、ただプログラムをこなしていくことだけで終わらせない、中身の無いままに動くことにしたくない。
- ミーティングで話すことが次の行動につながっていく。

7.14MTG

1. 今日の流れ。

6:00 おにぎり作り。

7:00 朝食

8:15 陸前高田に向けて出発

9:00～10:00 到着と付近を歩く。

10:00～12:00 大船渡での視察。

12:00～13:00 大船渡の漁港で昼ごはん。

13:00～15:00 地ノ森仮設住宅と起喜来仮設住宅を視察。

15:00～17:00 買い出しと帰宅。

17:00～19:00 大船渡のマッピング作成と夕食作り。

19:00～19:30 夕食（チャーハン）

20:00～21:30 ミーティング

2. 視察の感想。

現地での活動している人が少ない。

被災した人のことが分かるとおもっていたが、非日常すぎて映画のセットみたいだった。

骨組みだけ残った家にはいって、濡れていた布を触ったら実際の生活感を感じた。

がれきだけが残って、重機だけが動いているのを見て、疲れや寂しさを感じた。

戦後の復興的なものが見えた。

3. 被災状況

陸前高田では海から5～7kmまで津波がきた。

陸前高田の死者約1500。

マンションの4階までの窓が突きやぶれていた。その高さまで津波がきたことがわかった。

陸前高田は町の8割ほどが壊滅。ほぼなにもなくなっていた。

大船渡の死者約300。

大船渡は山が多かったので比較的残っている。1割ほどが壊滅。ほとんどが商業施設。

多くの建物がコンクリート製で残っていたが、壊滅的で住める状態ではない。

当時海の近くにいた人は助かったが、少し高いところにいた人は大丈夫だろうと思って、津波に吞まれた。

2カ月経たないうちに漁協が復興した。銀鮭が少し上がった。

ハエが大量発生。

冷凍の魚何百トンが溶けて、臭いがきつい。

海の色が青から緑に変わってしまった。

湾内にあった養殖が壊滅的。（かきやわかめ）

仮設住宅は2年間の限定契約。but 養殖の復活には3年かかったりする。

仮設住宅でそこに住んでる人が商売をしている。

なぜ勝手に商売をすると違法？

→市の許可が必要。Tax。他の人に対して歯止めがきかなくなる。不公平。

実際には市は見て見ぬふり。

4. 今までの行動、酪農学園大学と ChildFundJapan

仮設住宅への聞き取り調査。一番大事な質問→隣の人を知ってますか？知り合いはいますか？

聞き取り調査は最低30分かかる。最高で3時間30分かかった。

避難所36か所をまわった。この時一番関心ごとが多かったのは仮設住宅関連。

6～7か所の仮設住宅をまわった。地ノ森を中心に。

一番の問題点はコミュニティー。

被災したひとたちの自立が目標。支援するひとたちがいなくなってもやっていけることが大切。

→そのためには、コミュニティーが重要。

孤独死を防がなければならない。

阪神大震災では100～300人ほどが仮設住宅で孤独死。

ブラックリスト、ホワイトリスト（大丈夫だと認識してる）

ちょっとしたおしゃべりによる繋がりがなくなってしまうてる。

地ノ森は色々な地区から優先順位の高い人が来てるので、コミュニティーが薄い。

今日行ったもう1つの仮設住宅は元々纏まりのある地区が4つほど集まっているので、それなりのコミュニティーがある、比較的。

ベンチ作りはそのコミュニティーの薄さを補完する役割を果たす。

→問題点、この夏にベンチだけを作っても暑い。

直接コミュニケーションすることが相手に意識を変えることにつながる。

5. 明日の予定。

ベンチ作りへ向けての作業。仮設住宅への食器仕分け、配布、そのお知らせ。マップ完成。

7.15MTG 議事録

1. 今日の流れ

6:00 おにぎり作り

7:00 朝食

8:00 大船渡に向けて出発

9:00 大船渡ボラセンで登録

9:00~12:00 活動を2グループ（マッピング、ベンチ作成）に分かれて行動。

12:00~13:00 お昼ご飯、休憩。

13:00~16:00 越喜来仮設住宅にてチラシ、うちわ配布とベンチ作成。

16:00~18:00 買い出し、帰宅。

19:00~20:00 夕食

20:20~22:00 ミーティング

2. 成果

マッピング班

- 酪農学園大学が作った大船渡仮設住宅マップを改善していった。Google マップをもとに追加でA3サイズのマップ作成。

目的→県のサイトにも情報があるが、もっと一般的に分かりやすいように可視化。

- 大まかな仮設住宅の場所と戸数と住所が書かれている。

問題点→仮設住宅の場所が元々何もなかった場所に建てたから、カーナビで住所を入れてもその場所がでてこない。

プランター&ベンチ作り班

- 試しに1つずつ作成。1日で1～2セット作成が今のところの能力。
- 越喜来の山村広場仮設住宅で作った。

現地の人の声や対応など

- 昼間は多くの人が仕事などに出かけていていない。仮設住宅に残っているのはおじいさん、おばあさんが多い。
- 現地の人が差し入れなどをしてくれた。
- 棚が足りない。
- 家の中に座るとこがほしい。but 自分たちは家の外を対象としている。外の人とのコミュニケーションを重視しているから。
- 個人の要望にどこまで応えるべきか？はたして自分たちにそれがすべてできるのか？それをするとしたら公平性は保てる？
- ターゲットは必ずしもお年寄りだけではない、今目指しているのは全体のコミュニティーを作ること。
- ニーズにいつ、どの人に応えるかによって、公平性を保つことが難しくなる。

- 自分たちは広い公共性を目指している。公共性といっても県や市、町などがあるけれども、大船渡市全体を見ている。
- 公共性（公益性）を追求し続けると、少数派のニーズが満たされにくくなる。
- ピース・ウィンズ・ジャパンは岩手県南部全体を見ている。

3. 課題

- これからの個人的ニーズを求められた時にどう対応すべき？
 1. 自分たちが出来ることは限られていると認識する。
 2. 実際のニーズが本当にあるのか知ること。
 3. 自分たちの目的に沿っているかを判断すること。
 4. 他の団体でそのニーズに応えられるかを言うこと。
- 本来、活動している地域で動いてる NGO などの情報を共有しているべきだが、実際には出来ていない。

協力しない理由。

1. スタッフが忙しすぎて、MTGを開催しても参加することが難しい。
2. それぞれの意見、やりたいことが食い違って中々協力しない。
3. ある団体がニーズに応えようと 2000 食ほどの食事を作って配っていたが、ニーズを調べてみると、あるところではパスタなどの濃い味のものが配られていて実際にはいらないと言っている人もいた。

他の団体がそのことを指摘したが、欲しいというニーズがあるんだとして特に聞かなかった。

- ベンチなどを最終的にどう置くのか？
- 1つの公園のようなものとして置く。または、ニーズのある家に1つずつ置いていく。
- 自分たちのその目的を渡す時に伝える。自治会などがあれば、そこに伝える。

明日の予定。

マッピング。お皿配り。ベンチ作り（二人組がやりやすい）。

7.16MTG 議事録

1. 今日の流れ

6:00 朝ごはん準備

7:00 朝食

8:00 出発

9:00 大船渡ボラセンで登録

10:00～12:00 越喜来で2グループに分かれて活動開始。(コレール整理。ベンチ、プランター作り)

12:00～13:00 昼食、コレール配布。

13:00～15:00 ベンチ、プランター作り。コレール配布。子供との遊び。

15:00～19:00 地ノ森でのお祭りについて会議、買い出し。

19:00～20:00 夕食

20:20～22:20MTG

2. 活動内容

場所は越喜来。

→5つの地区から集まっている。

→お皿を配るために各家庭の人数や構成などを聞くとすぐに答えてくれるほどコミュニティが強いところ。

コレール配布班

コレール：落としても割れにくくて軽い食器。

越喜来仮設住宅の集合所で午前中に仕分け作業。

種類は長皿、ボウル、深皿、ランチ皿。

午後には各家庭に集会所で配布を開始。

8割以上の人を取りに来てくれたが、中には断る人もいた。

注意点は熱いものを入れると皿がとても熱くなって持てない。

自分たちが使ってみていると相手に伝えやすくなる。

なぜ越喜来が選ばれた？

→船戸さんが繋がりをもっていたのでやりやすかった。

→そこにニーズがあることを知っていた。

ベンチ、プランター班

二人組に分かれた。午前中に完成したのはベンチ2つ。

予定では3つだった。

作成時間は1つに1時間程度。もっと短くできる可能性はある。

プランターは2つ完成。

途中で子供がいたので、一緒に4～5人ほどと作成をした。

ペンキを一緒に塗る場合、子供の服が汚れたりするからその対策が必要。

子供達にとっても好評だったように見えた。

子供の保護者などもきて差し入れをくれたり人との交流が活発だった。

感想

お皿配りをするだけでも、それがきっかけとなって交流をしていた。

越喜来の交流は強いようにみえたけれど、よく出てくる人が見えているだけで、実際には全く出てない人がいるのではないかな。

越喜来は他の仮設住宅と比べてもコミュニティーが強いところである。

コミュニティーを強くするには、まず子供にフォーカスを当てることで、子供から親に元気が伝わってそこから親のコミュニティーを向上していくことにもつながる。

→だから、今日の子供を巻き込んだベンチ作りなどはとてもよかった。

問題点

→日差しが強すぎる

→熱すぎて飲み物が足りない。

→プランターの強度が弱い。

→要望に1個応えようとまた問題が1つ増えたりすることがある。

Ex.自治体がないとこに数人が空いた部屋（家電6セットが入っている）に談話室を作りたいと要望を出して、最終的に市から鍵を貰えたが、その数人が談話室を占有している状態になり、付近の住民が不満を出している。結果的にはそれを支援したNPOも批判の対象になってしまった。

改善点

でかいポット型の飲み物入れを容易する。

適度な休憩を入れる。

接着面にボンドをつけて強度を上げる。

提案、質問

集会所にお茶や本などを置いて交流の場を作るといいんじゃないだろうか。

ベンチなどのための絵をかける筆を用意したい。

子供との遊ぶための道具を買うといいのではないかな。

→そうすると自分たちの今している目標とのズレがでるのではないかな。

→遊びだけをするのは今すべきこと？

→お祭りのポスター、チラシ作り。

→拠点での避難場所は？近くの遠野高校。

→仮設住宅への聞き取り調査をしたい。

明日の予定

任意の教会への礼拝、10:30 から。午後からベンチ、プランター作り。

7.17MTG 議事録

1. 今日の流れ

6:00 起床

8:00 朝食（ご飯、味噌汁、納豆）

9:00 大船渡教会に出発

10:30～11:30 礼拝と被災地見学

11:30～13:00 教会の人達と昼食

13:00～15:30 ボラセンに登録、大船渡中学でベンチ、プランター作り

15:30～17:30 買い出し、近くの展望台、帰宅

19:00 夕食

20:10～21:30 ミーティング

2. 今日の活動

午後：大船渡中学においてベンチ、プランター作成。

ベンチ班

作り方を知っている二人組が他の二人組へ教え方を伝授。

ベンチは1つを作成。1時間半かかった。

ベンチを完成したもののぐらついた。

→釘の種類を変えると良くなりそう。

プランター班

1つ作成。

完成した時に支柱の長さがばらついていてぐらついた。

その他

一人がボランティア活動とは別で仮設住宅に住んでいる被災者に対して訪問調査を行った。院での卒論のため。

今日の感想

お話を聞ける対象がお年寄りか子どもに偏っているのではないか？

→若者（20代くらいの人）に話を聞いてみたい。

実際に仮設住宅に若者はいるのだろうか？

→就職活動や瓦礫の撤去として採用されたりしてあまり滞在していない。

おじさんが居酒屋が欲しいといっていた。

これから仮設住宅において、他の支援と競合したりした場合にどう対応していけばいいのか？

教会は震災で傷ついた人を救うにはいいとこだと思った。

午後の活動が少ししかできなかったから、もうちょっと時間を設けたかった。

ベンチを置くところに日陰を作らないといけない。

調査をするときに否定的な反応をすると思っていたが、実際には優しく応じてくれる人が多くて意外だった。

被災者の声

今のところ不便なことはない、震災当初に電気が不通でむしろ助かった。その時にも色々な被害状況をしっていたら精神的にまいっていたから。

被災前よりも今はあいさつをよくするようになった。

避難所よりも仮設住宅のほうがリラックスした生活ができている。

5人の人に聞いた中では、震災後に自宅を訪れた人はいなかった。もう何も残っていないから。

瓦礫という言葉聞きたくない。その瓦礫は自分たちの今までの宝の結晶が集まったものだから。

明日、明後日の予定

社協の泥だしなどの活動、お祭りに向けたポスター、チラシ作成、ベンチ、プランター作り。

7.18MTG 議事録

1. 今日の流れ

6:00 起床

7:00 朝食

8:00 大船渡へ出発

9:00 大船渡ボラセンで登録、社協でのボランティア（泥だし）とお祭りポスター、チラシ作り組に分かれる

① グループ

9:30～11:00 大船渡 YS センターでお祭りポスター、チラシ、作業中のお知らせ作り

11:30～12:30 昼食、休憩

12:30～15:00 越喜来でベンチ、プランター作り

② グループ

9:30～11:30 社協でのボランティア（側溝泥だし）

11:30～12:30 昼食、休憩

12:30～15:30 社協でのボランティア（側溝泥だし）

15:30～17:30 買い出し、帰宅

19:00 夕食（ハヤシカレー）

20:10～21:10 ミーティング

2. 今日の活動

ベンチ、プランター組

越喜来にて、ベンチ2台にペイント、ベンチ1台と足組を作った。

スクリュー釘に変えることで安定性が増した。

プランターは2台作成。

ブルーシートを使って日陰を作った。

ポスター、チラシ組

Photoshop を使って、デザインと最低限の情報が載ったポスターを作った。

ついでに、作業中のお知らせを作った。

社協ボランティア組

側溝の泥だしをボラセンから3分程度歩いたところで行った。

長靴、手袋、タオルを貸し出してくれる。

人数は午前中18人、午後は9人になった。青学側は3人。

社会人や青学のOB、先生、自営業など多くが年齢の高い人だった。

女性にはかなり厳しいくらいの肉体労働。

休憩はかなり多めにとる。

側溝のどろはかなり固まっていて、ツルハシなどで壊すなど結構きつい。

ボランティアの仕事はなくなりつつある。専門的な危険を伴う作業は企業などになる

から。でも、他の作業として仮設住宅での活動などに需要がある。

その他

一人が越喜来で昨日と同様聞き取り調査を行った。

「あなたは太船渡で調査するのがいいと思ってるの？」と聞かれた。

→メディアが数日前に太船渡に取材に来たが、後に出た報道ではほぼ陸前高田が載っていた。メディアにとって被害が広く大きい方が取り上げる価値があるから。

仮設住宅での全体の顔合わせはなかった。

自治体は全体を把握していても、住民は全体を知らない。

孤独死を防ぐためにも、情報公開をしてほしい。

家が残っている人は負い目を感じている。物資の配給なども遠慮しがちになっている。

明日の予定

ポスター、チラシ作り。越喜来でプランター、ベンチ作り。半日社協のボランティア。

7.19MTG 議事録

1. 今日の流れ
6:00 起床
7:00 朝食（パン）
8:00 大船渡に向けて出発
9:00 ボラセンで登録。ポスター、チラシ作りと、社協でのボランティア（泥だし）の
2 グループに分かれる。
① 9:30～12:00 社協でのボランティア(泥
だし)
② 9:30～12:00 ポスター、チラシ作り
12:00～13:00 昼食
13:30～15:00 越喜来でベンチ、プランター作り
15:30～16:00 ボラセンで記念撮影と挨拶
16:00～18:00 買い出し、帰宅
19:00 夕食（うどん）
19:45～ミーティング
2. 今日の活動
ポスター、チラシ組
午前中に緑のポスター 1 枚を作った。
ベンチなどを作っていることを知らせるチラシを作った。
→どういった目的で作っているか。
→注意事項
→A4 サイズ
社協でのボランティア
午前中にボラセンから 3 分程度歩いたところで側溝の泥だし。
グループ 1 2 人のうちほぼ社会人。
午後は越喜来にてベンチ、プランター作り
ベンチ 1 つと、もう 1 つ途中まで作成。スクリュー釘はやっぱり強度が高い。
スクリュー釘で怪我をした人が二人いた。
→軍手をはめる？釘抜きを新たな物を買う？
プランター 2 つ作成。これから引き継ぐ 3 人に作り方を伝授。
どうやって完成したものを引き渡す？
その他
一人が別行動として午後の 1 時間ほど仮設住宅の人に調査
→放射能について知らないで不安になるか、知ってパニックになるかどちらがいいの
か分からない。

3.

1週間を通しての活動

泥だしの効果

部屋の片付けと同じで誰かが片付けないと溜まっていく一方。

将来的にその地域に人が住めるのか。居住区にならなくても商業区になるから意味がある。

今やるべきことの優先順位として泥だしの効果は必要とされるのか。

短期に来るボランティアに向けての作業として費用対効果は低いもののやってるいるという事情もある。

行方不明の方が側溝にいる可能性もあるから人海戦術でやる意味はある。

ベンチ、プランターの効果

9週間の1週目としての役割は上手く果たせた。

活動することで青学の活動を広めるという効果は作れた。

子供たちの交流とさらには大人の交流も作業中に作れて、コミュニケーションにきっかけ作りはできたと思う。

外側のコミュニティから外れている人をどうしたら巻き込んでいけるのだろうか？

→自分たちが何かをするんじゃなくて、現地の人と一緒にすることがいいのではないかな。

→地域の人たちがそういった人を認識できる地域のコミュニティを生み出していくことに自分たちの目標がある。

→夏祭りなどのイベントで人の横のつながりを生み出し、強くしていくことが自分たちの方針。

→9週間の期限の中で何が自分たちにできるのかを考えると、必ずしも外側のコミュニティから外れてる人を対象にするのではなく、人の交流を生み出すツールを提供することが最善ではないか。

→2年間という仮設住宅の中で横のつながりを生み出すのは難しいことであるけれども、そのつながりを生み出す努力をしないで出る弊害と、少しでも努力してやっていくことは、やらないことよりもやることのほうがいいのではないかな。

ポスター、チラシの効果

大勢に知らせることにつながるし、そのお知らせによって話のネタにもなる。

ボランティアは自分のため？他人のため？

明日の予定

主に引き継ぎ。清掃。